玉川山田どじょうプロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

・八ヶ岳山麓の広大な農地を潤す『滝の湯堰・大河原堰』は、江戸時代に坂本養川が作り上げたものであり、『世界かんがい遺産』123 か所の一つに登録されている現役の重要な施設である。
・古来、毎年春には堰の整備清掃を目的に農民たちの手により『堰上げ（せぎあげ）』が行われ、泥と一緒に捕えられた『どじょう』を御馳走にして『どじょう祭り』の名で直会が催された。
・村の歴史、先人の偉業により作られた水路や水田をはじめとする農業との関わりを、子どもたちが地域住民とともに学ぶという地域教育を進めることを目的とする。
・地域を知り、地域の素晴らしさを体験することにより、「やっぱりここに帰ってきたい！」「ここで長く暮らしたい！」と、一人でも多くが思える地域づくりを進めたいという思いである。
・村内にある 10 軒の空き家の内 1 軒をリノベーションして、事業推進のための交流拠点に据えるとともに、情報発信のランドマークとなるよう位置づける。

事　業　内　容

●『どじょう』生育の為の設備整備と子どもたちとの交流
どじょう生育池周辺にて、地域の保育園・小学校児童の生育体験や、どじょうの生態の学習カリキュラムを実施した。
●どじょうが生育可能な自然環境整備のための講演会の実施
農業関係の知識を高め、環境にやさしい農業の実現を目指すための研修会を地元で実施し、関心を高めることが出来た。
●堰の歴史、村の歴史の資料展示室の設置と公開
坂本養川の功績を具体的な数値（石高の向上）も表示して、誰にでも解りやすい展示・解説室を作ることが出来た。
●事業推進拠点『どじょうハウス阿弥陀亭』の完成と運営
村内のボランティアにより古民家リノベーションが完成した。玄関には生きたどじょうが泳ぐ水槽を設置し、続く展示・解説室には堰と村・農業の歴史展示へと続く。ホールは椅子席で約 30 席あり、研修・講演会の開催も可能で、どじょう料理を始め馬肉料理などの郷土料理を楽しむことが出来る。

【子どもたちとどじょうのふれあい】

事　業　効　果

●久しぶりの『村内での新たな動きへの驚きと期待！』があり、閉塞感からの脱却に光りを見る。
長期にわたり村内で新たな動きが無かったため、ソフト・ハード両面の事業がメディアに紹介され話題になることで大きな驚きが生まれ、事業への支援者も増えて更なる発展が期待されている。
●『古民家リノベーションによる交流拠点の完成と運営の成果が素晴らしい！』と評価されている。
交流拠点であり、情報発信のランドマークである『どじょうハウス阿弥陀亭』の完成は、村内空き家の一割減少という効果をはるかに超えて、中心市街地から遠く離れた中山間地において、地元住民だけでなく、圏外からの来訪客にも楽しめる施設として認識されてきている。
●未就学児童から小学生が『どじょう』をコミュニケーションツールにした思い出づくりができた。
保育園児が、どじょうに触って体験する。小学生が、理科の授業でどじょうの血流を顕微鏡で観察する、等の学習を通じて歴史的に地域と関係の深いどじょうによる思い出づくりができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

●今後は、どじょうの生育についての専門的な学びの場を設定する
どじょうは育つのにとても時間がかかり、又非常にデリケートで自然の微妙な変化に敏感に反応する魚である。県内のどじょうに詳しい漁業専門家を招聘して現場で役立つ勉強会を実施する。
●『どじょうハウス阿弥陀亭』の利用範囲の拡大と、『堰めぐり徒歩ツアー』の実施をする。
『どじょうハウス阿弥陀亭』では、ヨガ教室等のサロン的利用の拡大を計画している。また、『大河原堰』を歩いて巡り、先人の偉業を学び、体験する徒歩ツアーを企画して参加者を募り実施する。

【評価のポイント】
「どじょう」という地域資源に着目し、幅広い世代が共に学ぶ地域教育を推進するとともに、古民家を改修して地域住民の交流の場を整備し、地域のつながりの創出を図った。

団体名　玉川山田どじょうプロジェクト	事業タイプ　ソフト・ハード事業
連絡先　守屋浩治	事 業 費　４，０１３，２１２円
Mail　haikansha.moriya@gmail.com	支援金額　２，４７９，０００円